

令和5年度 第2回京都府中丹地域戦略会議開催結果（概要版）

- 1 日 時 令和6年3月18日（月） 14時00分～16時15分
- 2 場 所 京都府綾部総合庁舎 第1会議室
- 3 出席者 【委員】出席9名（欠席3名）
【オブザーバ】各市企画担当課長等
【中丹振興局】高屋局長、宮下中丹教育局長、白波瀬副局長、
井関地域連携・振興部長、岡田農林商工部長、細井建設部長、
野条中丹東保健所次長、吉岡港湾局港湾企画課長 他

4 主な意見等

(1) 中丹地域振興計画の推進について

《U I ターン等》

- ・「高校生向け出前講座」を自主開催した4校がそれぞれどのような取組を実施したのか局内でも把握し、情報共有しておくことが重要。
- ・令和5年度「高校生向け出前講座」の実施場所に綾部高校が含まれていないが、6年度は是非綾部でも実施してほしい。

《担い手育成・確保》

- ・令和5年度は福知山市と舞鶴市で、「将来の担い手育成・確保事業（ものづくり産業・建設業）」を実施されているが、綾部市は綾部工業団地があるなど、ものづくり産業が盛んな地域であるので、6年度は綾部市とも連携して取り組んでほしい。

《野生鳥獣》

- ・シャガ・ミツマタの群生地でも鹿の食害被害に遭っており、観光面でも獣害の報告を聞くことが多くなったので、そういった被害に対する補助などの支援があれば良いと思う。

(2) 令和6年度当初予算案について

《U I ターン等》

- ・福祉業界は人材確保が難しく、経営努力だけではどうにもならない状況にあるので、「企業の魅力体験・体感型ツアー」の訪問企業に福祉業界も含めてほしい。
- ・福祉に従事する職員は、なかなか出会いの場や同世代とストレスを共有する場がないので、「若者の交流の場（YOU 好会）」のような取組を広く周知してほしい。
- ・「企業の魅力体験・体感型ツアー」は良い取組なので、実施回数を3回ではなく、より多くの企業を訪問できるようもっと回数を増やしてほしい。
- ・新規事業の空家相談会について、多くのU I ターン者に空家を活用していただくことに期待する一方、リノベーションしないと使用できない空家が多い点にも留意しながら取り組む必要がある。
- ・新規事業の「Uターン施策調査・分析研究事業」のような社会調査については、個人情報や人権に関する部分に相当注意が必要になるため、しっかり議論をした上で実施してほしい。
- ・府立工業高等学校では、長田野工業団地や綾部工業団地を就職先として、高卒の人材を多く輩出しているが、中学校の進路指導の先生に工業高校を進学先として認識してもらうための積極的なアプローチがない点が気になる。

- ・長田野工業団地や綾部工業団地の企業に求められる人材として、工業高校の出身者が主力になると考えられるので、中学校の進路指導の先生や中学生に対して、工業高校の魅力を発信していくことが重要。
- ・工業高校も何割かの生徒は大学に進学しており、工業高校でものづくりについて学んだ上で将来的には大学に行くなど、普通科の生徒と同じように大学へ進学する選択肢もあるということを保護者の方に理解いただくことも重要。
- ・工業高校でもインターンシップを実施しているが、生徒が行きたい企業ではなく、インターンシップを受け入れてくれる企業に行っているのが現状である。企業と連携して生徒の希望に近い企業で就業体験してもらうことが必要。

《子育て》

- ・「子育て支援団体活動の見える化」については、今年度の子育てワーキング会議で議論した内容が反映されており、また、「中丹子育て未来づくり 100 人会議」についても、まち全体で子どもを育てるための取組として予算が付いて良かったと思う。
- ・持続可能な地域づくりについて考えると、出生率の減少が著しいことに危機感を抱いており、京都府として「子育て環境日本一」を謳うのであれば、局予算の中で少子化対策に繋がるような取組を実施しても良いのではないかと思う。
- ・婚活を全面的に打ち出す施策でなくても、「若者の交流の場 (YOU 好会)」のように、結果的に出会いの場にもなり、何らかの形で少子化対策にも繋がるような取組を期待している。

《担い手育成・確保》

- ・建設、農業、林業、インフラ等、地域の生活の根幹となる部分を支える人材に地元に残ってもらえる取組として、ふるさと教育など、中丹地域にはこれだけの魅力があるということを知ってもらう機会を教育カリキュラムに入れるといった対策が必要。
- ・自治体の土木職員に十分な能力や人員が備わっていないと災害が発生した際の対処や復興に遅れが生じるため、優秀な技術職の人材が集まるような施策が局予算の中にあっても良いのではないかと思う。

《観光・交流促進》

- ・大阪・関西万博に向けた情報誌について、各地域には既に地域毎の観光情報等を発信しているパンフレットがあるため、振興局として作成するのであれば、管内3市を繋ぎ、中丹地域を周遊できるようなモデルプランを掲載するなど、振興局だからこそできる情報誌を作成してほしい。